



# SUSTAINABLE FASHION

これからのファッションを持続可能に

## ファッションを持続可能に

令和8年1月29日 サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議

環境省「ファッションと環境」タスクフォース

# 循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行加速化パッケージ

令和6年12月27日（金）循環経済（サーキュラーエコノミー）に関する関係閣僚会議決定

## 地域の循環資源を生かした豊かな暮らしと地域の実現

### 地域の再生可能資源の徹底活用

- 国民各層における資源循環ビジョン・モデルの共有<sup>※</sup>や地域への実装支援【経産、環境】  
※産官学からなるサーキュラーパートナーズの活用や全市町村からなる資源循環自治体フォーラム創設
- レアメタルを含む小型家電など地域の循環資源の回収・再資源化の促進【環境、経産】
- 食品ロス削減、**サステナブルファッション**、使用済おむつリサイクルの推進【消費者、農水、経産、環境】
- **新しい地方経済・生活環境創生交付金**等による地方公共団体の取組支援等【地方創生】
- 廃棄物や未利用資源などの地域資源を活用した**地域脱炭素**の推進【環境】
- 資源循環に資する「**地域生活圏**」の形成【国交】

### 農山漁村のバイオマス資源の徹底活用

- 地域の未利用資源等を活用した農林漁業循環経済地域づくりに向けた支援【農水】
- 中高層をはじめとする木造建築の推進や木質系新素材の技術開発の支援【農水、国交】

### 資源価値を可能な限り活用するまちづくり・インフラ整備

- 下水汚泥資源の有効利用の推進、建設リサイクルの高度化【国交、農水】
- 長く使える住宅ストックの形成・空き家等の利活用・インフラ長寿命化の推進【国交】

### 循環経済型ビジネスの拡大

- 付加価値が高く利用しやすい**リユースビジネス等**<sup>※</sup>の支援【環境、経産】  
※新たな売り方（リメイク、アップサイクル、シェアリング等）の促進、電子的なプラットフォームの活用（eコマース等）など
- 大阪万博での「**日本版CE**」の発信【経産、環境】

# 循環型繊維・ファッションに関するG7アジェンダ（G7ACT）

- 2024年4月にイタリアで開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合のコミュニケにおいて、G7資源効率性アライアンス（G7ARE）（※<sup>1</sup>）に対して、「共通かつ自主的な循環型繊維・ファッションに関するアジェンダ」を2024年末までに策定を求める旨が記載された。
- これを受け、2024年12月5日にローマで開催されたG7ARE会合において、循環型繊維・ファッションに関するG7アジェンダ（G7ACT（※<sup>2</sup>））を策定。

⇒より循環型で持続可能な繊維・ファッション業界への移行のために、グローバルバリューチェーンの政府、企業、利害関係者、労働者、パートナー間の協力と知識共有を促進することを目的とし、6つの課題を特定して、各課題に関連する各国やG7レベルでの自主的な行動を規定。

## 循環型繊維・ファッションに関するG7アジェンダにおける6つの主要課題

1. 製品及び素材の長寿命化
2. バリューチェーン全体における製品・素材の持続可能性と循環性に関する明確性・透明性
3. 革新的な素材、リサイクル素材及び効率的な生産プロセスについての市場への普及
4. 循環型ビジネスモデルへの移行をはばむ経済的障害
5. 使用済み繊維製品及び繊維廃棄物の循環性におけるギャップ
6. 持続可能でない原材料の代替

⇒ **2025年カナダで開催されたG7エネルギー・環境大臣会合においても、「G7循環経済及び資源効率性行動計画」に係るインパクトの大きい主要分野として「繊維・ファッション」が挙げられた。**

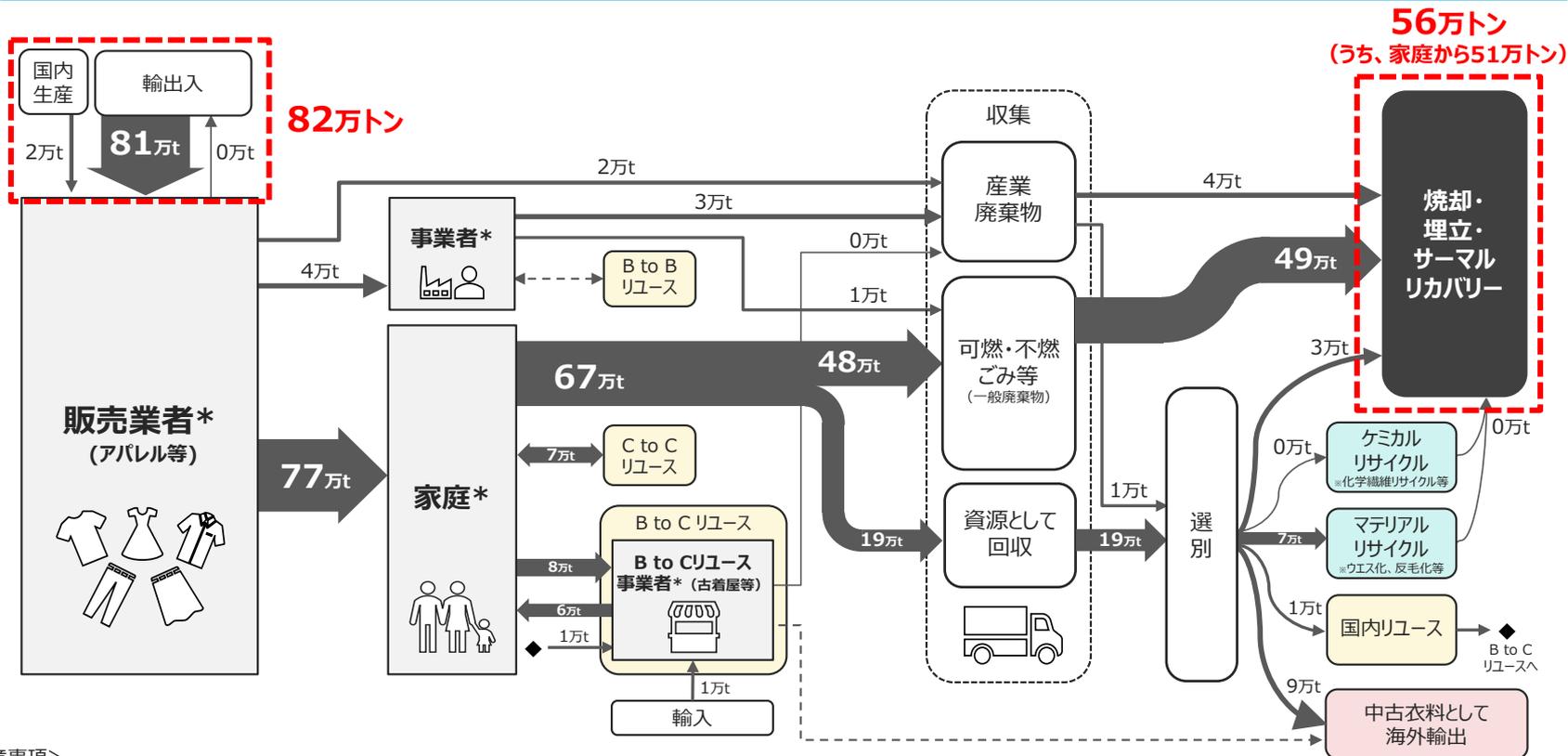
（※<sup>1</sup>） The G7 Alliance on Resource Efficiencyのこと。2015年に設立され、産業界、公的部門、研究機関、学界、消費者、市民社会等の関係者とともに、G7国間で循環経済や資源効率性に関する優良事例を共有し、連携していくためのアライアンス。循環経済におけるG7の合意形成の場。

（※<sup>2</sup>） G7 Agenda on Circular Textiles and fashion

# 循環型ファッションのシステムの構築に向けた検討

- 環境省では、2024年における衣類のマテリアルフローを作成している。衣類の国内新規供給量は計82万トンに対し、約7割に相当する計56万トン（うち、家庭から51万トン）が手放され、焼却等により処理されていると推計。

## 2024年版 衣類のマテリアルフロー

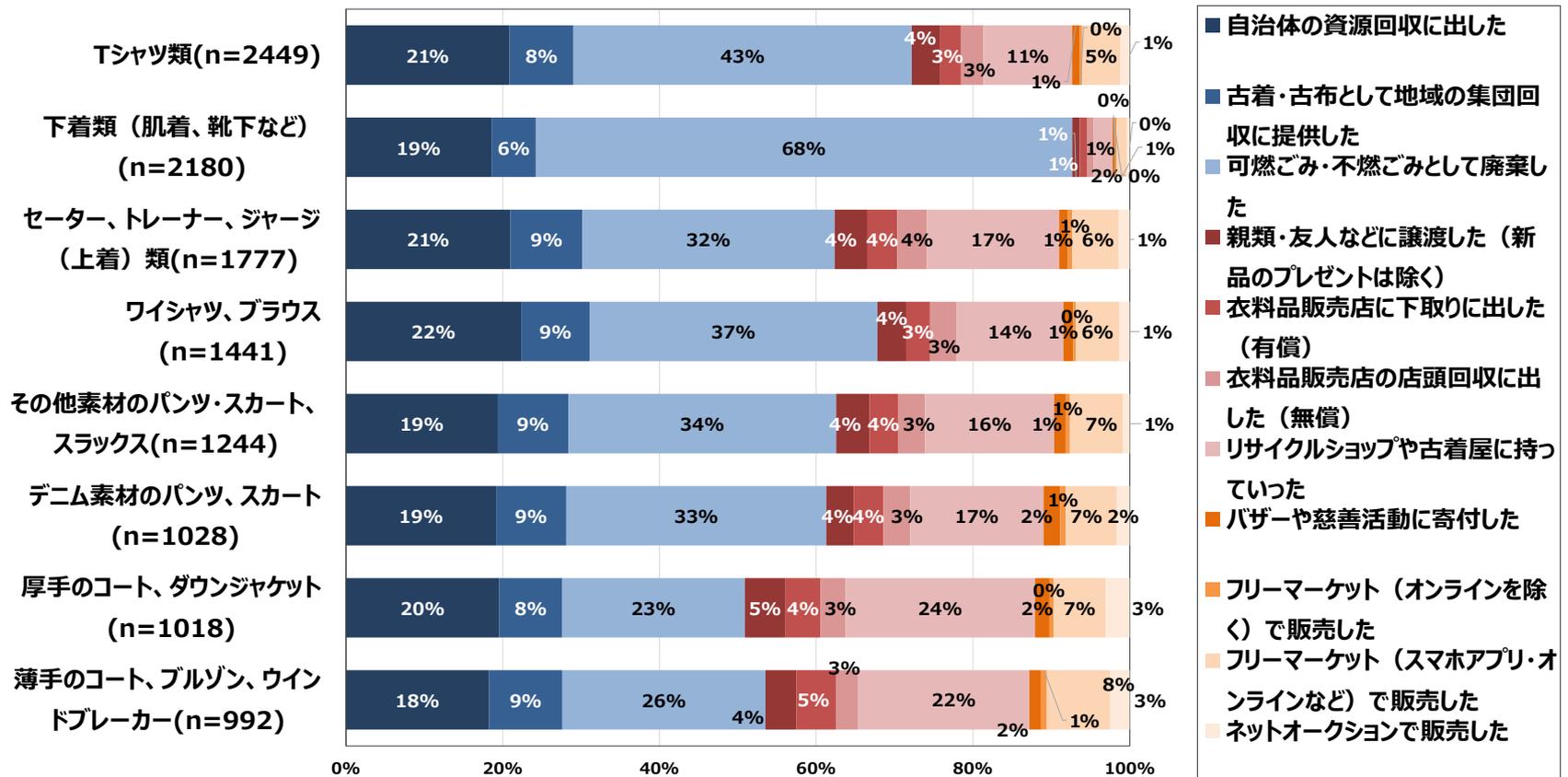


- <留意事項>
- ※ 本フローは、2024年時点で把握可能な最新データを用いて作成されており、「2024年に作成されたフロー」という位置づけである。必ずしも、2024年時点の実情が反映されたものでない点に注意が必要である。
  - ※ 「\*」印のついた主体に投入された衣類は、在庫・使用・退蔵等を理由に一定時間ストックされた後、排出されるため、推計対象年におけるインプットとアウトプットの値は一致せず、その差分がストックの年間増加量/減少量となる。
  - ※ 「C to C リユース」とは、親類や友人への譲渡、バザー、フリーマーケット（オフライン）、フリマアプリ、ネットオークションを指す。
  - ※ 「資源として回収」とは、一般廃棄物（資源物）としての廃棄、下取り・店頭回収・集団回収への排出を指す。
  - ※ 点線（- ->）は値が不明なフロー。
  - ※ 各合計値は、四捨五入の関係で和が一致しない場合がある。

# 生活者の衣類の排出に対する意識

- 循環型ファッションの推進においては、生活者は衣類を大切に使用し、排出する場合には「資源である」という認識から適切な排出方法を選択することが求められる。
- 生活者へのアンケート調査の結果、衣服は「可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄」される割合が高く、資源としての回収への協力や、自主的なリユースの取組の実施の割合は低い水準にある。

## 衣服の種類別 最も利用頻度の高い手放した方法



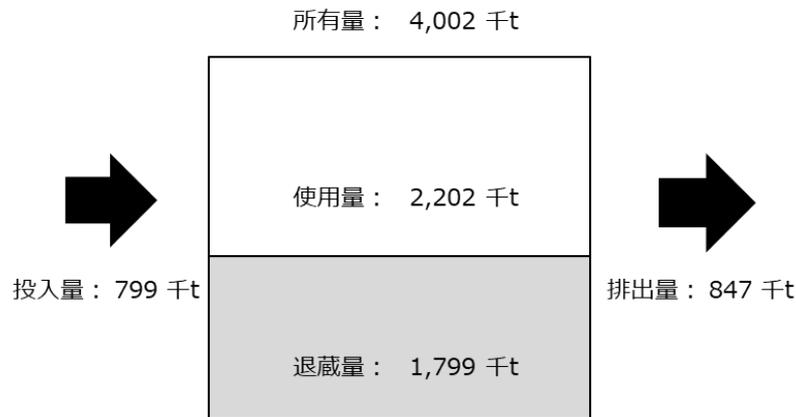
(注) 2024年1月～12月の1年間で手放した服について、服の種類別に、最も利用頻度が高い手放した方法を調査。15種類の衣服のうち、回答数の多かった8種類を集計。

(出所) 環境省「令和6年度循環型ファッションの推進方策に関する調査業務 報告書」

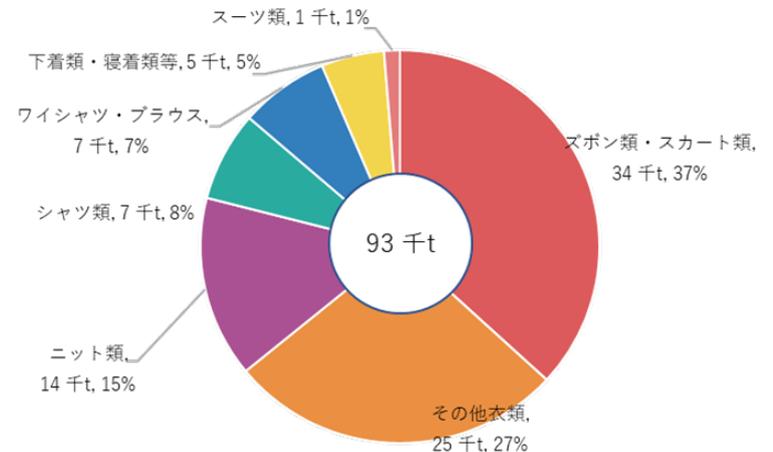
# 生活者の衣類のストックに関する現状

- 生活者の衣類のストック（所有量、使用量、退蔵量）の状況は、衣類の排出状況と密接に関係する。
- 家庭に投入された衣類（中古品として入手されたものを除く）を対象としたストック調査を実施したところ、2023年において**所有する新品衣類の約45%が退蔵している**と推計され、**リユース・リサイクルのポテンシャルがあること等が明らかになった。**
- また、家庭から可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄される衣類のうち、ひどい汚れ・損傷ではない理由で廃棄されている衣類にリユースポテンシャルがあると仮定した場合、**約93千tにリユースポテンシャルがあると推計**され、生活者の意識変容によってリユースが促進されることが期待される。

## 新品として入手された衣類の投入量・排出量・ストック量(2023年)



## 廃棄（可燃・不燃）される衣類のリユースポテンシャル種別内訳(2023年)



(注1) いずれも消費者アンケートの分析結果及び、家庭への衣類（中古品として入手したものは除く）の投入量（推計値）に基づき推計。

(注2) 左図では、使用者が普段使用している衣類の量を「使用量」、使用者が普段使用しなくなったにもかかわらず、手放されていない衣類の量を「退蔵量」、使用者の使用有無にかかわらず、所有している衣類の量を「所有量」としている。なお、家庭から排出された衣類は、「廃棄（可燃・不燃）」、「廃棄（資源回収）」、「集団回収」、「下取り」、「店頭回収」、「リユース」のいずれかの方法で手放されると想定。

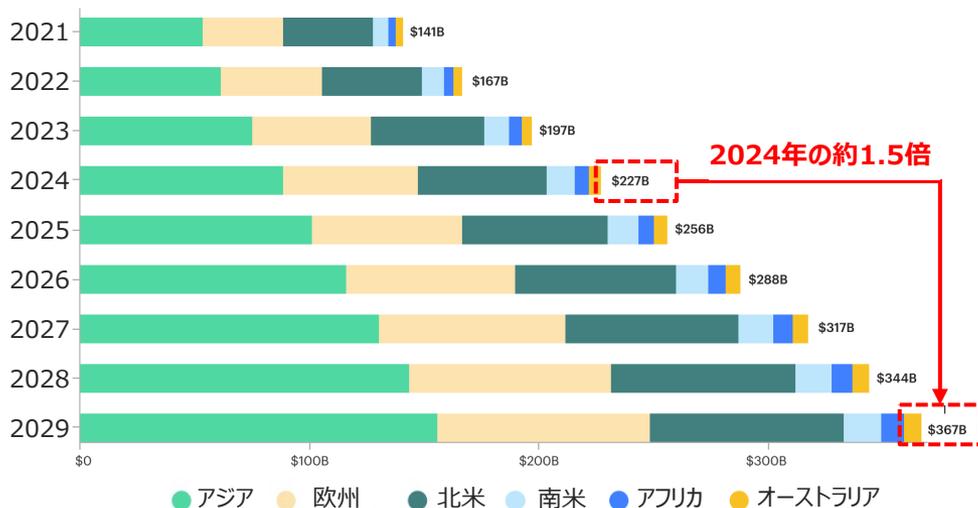
(注3) 右図では、「廃棄（可燃・不燃）」で手放された衣類のうち、「シミや黄ばみ等の汚れが目立つようになったため」「ちぢみ、やぶれ等の損傷があるため」等のひどい汚れ・損傷ではない理由で手放されている衣類にリユースポテンシャルがあると仮定し、推計。

(注4) 当該調査ではデータ入手可否等の観点から新品として入手された衣類（新品で店舗等から入手した衣類）を推計の対象としており、リユースされた中古衣類は推計の対象外とした。

# 衣類のリユース市場の動向

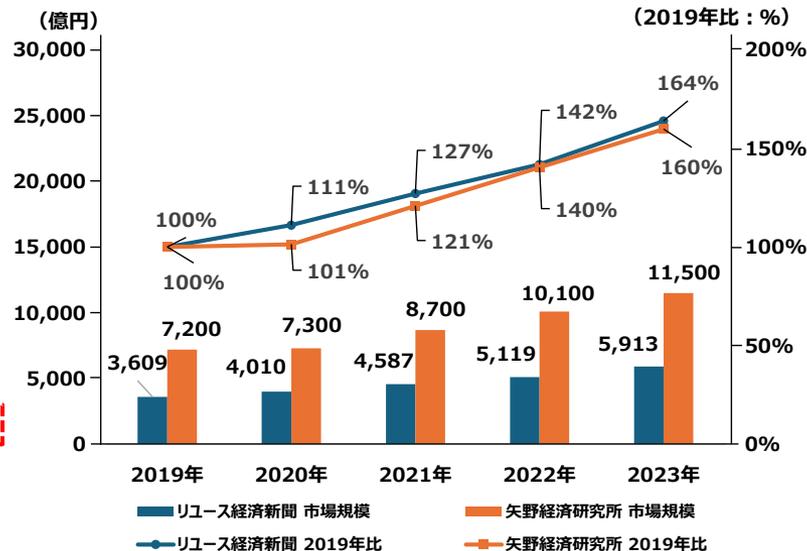
- 世界のファッションリユース市場は、2029年までに3,670億ドルに達すると予測されており、**世界の衣料品市場全体の成長速度の2.7倍の速さで拡大する見込み**と言われている。
- 国内のファッションリユース市場についても、近年市場規模が拡大傾向**にあり、従来の「古着屋」だけでなく、国内大手アパレル企業による自社ブランドのリユースショップの展開がはじまっている。

## 世界のファッションリユース市場規模の推移



(出所) 米国ThredUP社“Resale Report 2025” (<https://www.thredup.com/resale>) (最終閲覧日: 2025年10月5日) を基に作成

## 国内のファッションリユース市場規模推移



(出所) 矢野経済研究所「ファッションリユース市場に関する調査を実施 (2024年)」 ([https://www.yano.co.jp/press-release/show/press\\_id/3584](https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3584)) (最終閲覧日: 2025年10月10日) および、リユース経済新聞「リユース市場データブック 2024」を基に作成  
(注釈) 両調査は調査方法・対象が異なり、数値を単純比較できないことに注意。

---

# 循環型ファッションの推進に向けた アクションプランについて

---

# 令和7年度持続可能で循環型であるファッションに関する検討会



- ・我が国における循環型ファッションの推進及び衣類の廃棄量の削減に向けた方向性について幅広く検討し、「循環型ファッションの推進に向けたアクションプラン（仮称）」の取りまとめを行うことを目的に設置。

## 委員構成

(座長)

田崎 智宏 国立環境研究所 資源循環領域  
資源循環社会システム研究室 室長

(委員)

天沢 逸里 早稲田大学 カーボンニュートラル社会研究教育センター  
准教授 (康師傅寄付チェア)

織 朱實 上智大学大学院 地球環境学研究科 教授

鬼沢 良子 特定非営利活動法人持続可能な社会をつくる  
元気ネット 理事長

木村 照夫 京都工芸繊維大学 名誉教授

中谷 隼 東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 准教授

矢野 順也 京都大学 環境安全保健機構環境管理部門 准教授

(事務局)

環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課  
環境省「ファッションと環境」タスクフォース

(オブザーバー)

経済産業省 製造産業局 生活製品課  
消費者庁 消費者教育推進課

## 開催スケジュール

第1回 (令和7年10月29日)

○業界関係者へのヒアリング

- 1) 一般社団法人ジャパンサステナブルファッションアライアンス
- 2) ナカノ株式会社
- 3) ファイバーシーディーエム株式会社

○循環型ファッションの推進に向けたアクションプラン（仮称）  
の取りまとめに向けた方針の検討

第2回 (令和8年1月30日)

○マテリアルフローの精査に関するワーキンググループに関する報告

○関係者へのヒアリング

- 1) 経済産業省製造産業局生活製品課
- 2) 帝人フロンティア株式会社
- 3) 愛知県蒲郡市
- 4) 合同会社CYKLUS

○アクションプランの素案に関する検討

第3回 (令和8年3月頃予定)

# 1. アクションプラン策定の背景・趣旨

- 繊維製品は、原材料調達～製造～利用～廃棄の過程で多くの温室効果ガスを排出し、化学物質の使用や水資源の消費、合成繊維由来のマイクロプラスチックの海洋流出等の環境負荷をもたらすことから、業界全体の持続的な発展のためには、**大量生産・大量消費・大量廃棄から脱却し、循環経済を実現していくことが不可欠**である。
- 政府は、繊維製品の資源循環システムの構築に向けた課題解決の方向性の検討を実施し、2024年6月には「繊維製品における資源循環ロードマップ」が策定された。本ロードマップ及び第5次循環型社会形成推進基本計画（令和6年8月閣議決定）においては、「**2030年度時点において、家庭から手放される衣料品のうち、廃棄されるものを2020年度比で25%削減する。**」等の政府目標を掲げた。
- この度、家庭から廃棄される衣類の削減目標の達成に向けた具体的な取組を「循環型ファッションの推進に向けたアクションプラン（仮称）」として取りまとめ、関係省庁が連携し、幅広い関係者の協力を得つつ、強力に推進していく。

## 繊維製品における資源循環ロードマップ

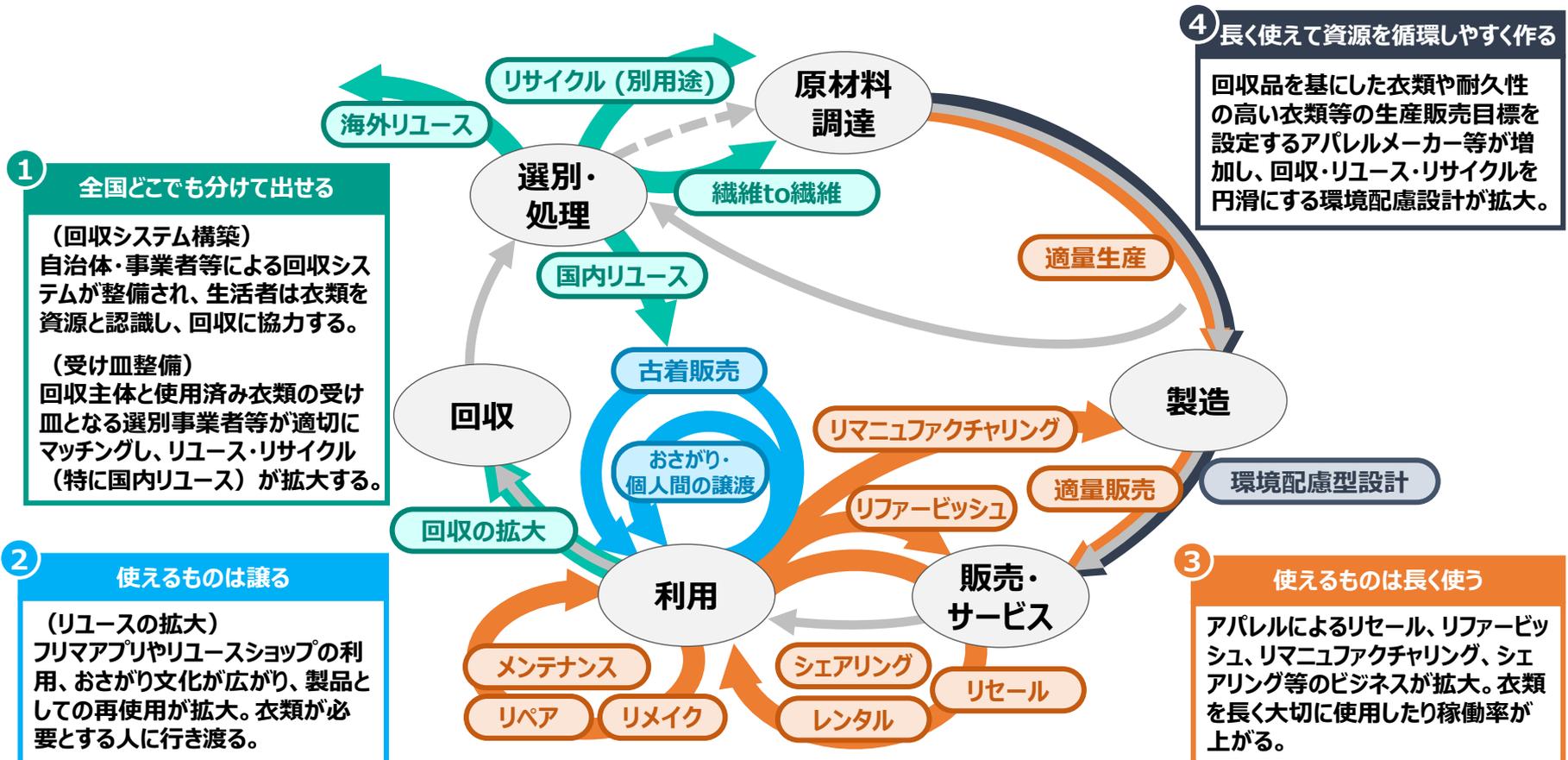
2040年度の資源循環システムの構築、適量生産・適量消費の達成を目指し、そのためのKPIを設定。まずは、それぞれの項目で2030年度をターゲットイヤーとした個別目標を達成していく。



## 2. 循環型ファッションの推進を通じて目指す姿

- 家庭から廃棄される衣類の削減目標の達成に向けて、「①全国どこでも分けて出せる」「②使えるものは譲る」「③使えるものは長く使う」といった方向性が挙げられ、また、それらの具現化に当たっては「④長く使えて資源を循環しやすく作る」といった製造側の対応も必要となる。
- 目標達成に向けて、各施策を進展させ、下図に示すような将来像の実現を目指していく。

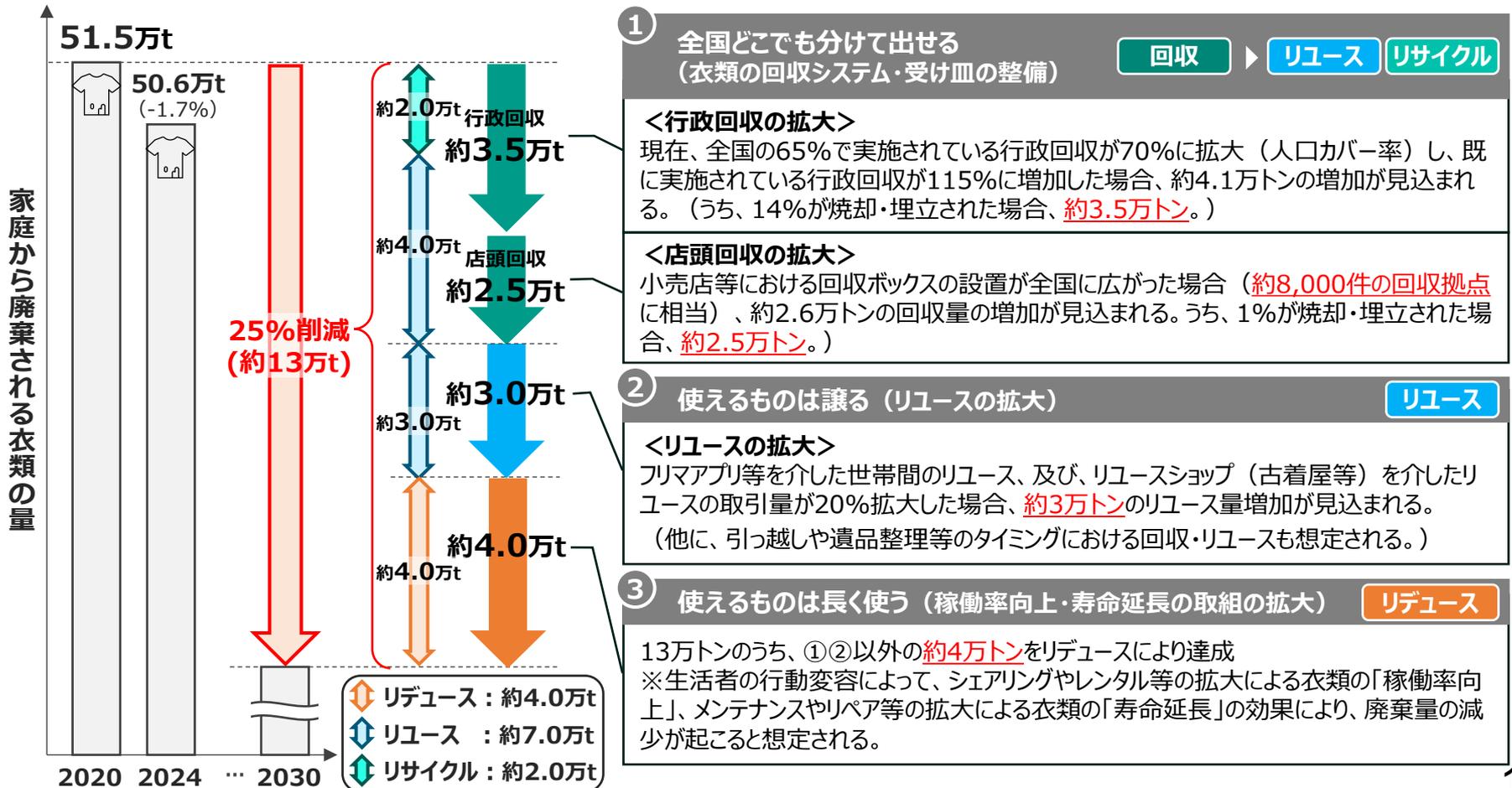
### 目標達成に向けた将来像



### 3. 2030年25%削減目標の達成イメージ

・リデュース・リユース・リサイクルに資すると考えられる「①全国どこでも分けて出せる（衣類の回収システム・受け皿の整備）」  
 「②使えるものは譲る（リユースの拡大）」「③使えるものは長く使う（稼働率向上・寿命延長の取組の拡大）」の3つの方向性の具現化を通じて、家庭の廃棄量25%削減目標の達成を目指す。

#### 2030年25%削減目標の達成の目安



# 4. 循環型ファッションの推進に向けたアクションプラン（概要）

## 国のアクション（家庭から廃棄される衣類の削減目標の達成に向けた施策）

家庭から廃棄される衣類の量



① 全国どこでも分けて出せる	<input checked="" type="checkbox"/> 解消すべきボトルネック 行政回収によるコスト増加、廃棄物としての取扱い（専ら物）に関する自治体の理解促進 <b>▶ 1-1. 行政回収による衣類資源の質・量の向上</b> ✓ 効果的な回収を実現できている事例のポイント整理など、行政回収の実践的なガイドラインの策定 ✓ 行政回収にかかるコスト低減に向けた支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 解消すべきボトルネック 「資源」であることが十分に生活者に認識されていない、故繊維事業者等の地域偏在 <b>▶ 1-2. 店頭回収の全国展開、マッピング等による回収拠点の見える化</b> ✓ 店頭回収拠点増加により「衣類は資源」と実感する機会の創出・拡大、行政回収空白地域の穴埋め ✓ 回収を身近に感じるためのマッピングによる全国の衣類回収拠点見える化促進
	<input checked="" type="checkbox"/> 解消すべきボトルネック 使用済み衣類の資源価値の低下、手作業による選別作業の生産性の低さ <b>▶ 1-3. 再資源化量増加に向けたプロジェクト等支援、新たな再資源化手法に関する調査・検討等</b> ✓ 繊維to繊維リサイクル事業や関連研究・調査の推進
② 使えるものは譲る	<input checked="" type="checkbox"/> 解消すべきボトルネック 「リユース」が手軽な選択肢として認知されていない、リユース品への抵抗感 <b>▶ 2. リユース等の促進に関するロードマップを踏まえた施策の推進</b> ✓ 別途策定する「リユース等の促進に関するロードマップ」に基づき、他の使用済製品と合わせて施策を推進
③ 使えるものは長く使う	<input checked="" type="checkbox"/> 解消すべきボトルネック ウルトラファストファッションの普及 <b>▶ 3. 衣類を長く大切に使う機運の醸成、生活者の行動変容の促進</b> ✓ 若年層を対象とした、サステナブルファッションに関心の高い繊維・アパレル関係企業、業界団体及び各種イベント（例：2027年国際園芸博覧会）等と連携したサステナブルファッションキャンペーンの実施 <b>▶ 2. リユース等の促進に関するロードマップを踏まえた施策の推進 ※再掲。シェアリング、リペア等の推進</b>

## 国のアクション（目標達成に向けた環境整備等のための施策）

④ 長く使えて資源を循環しやすく作る	<input checked="" type="checkbox"/> 解消すべきボトルネック 複合素材繊維の使用等による難リサイクル性、繊維to繊維リサイクルのコストの高さ <b>▶ 4. 環境配慮製品の販売促進、需要創出に関する環境整備</b> ✓ 環境配慮設計ガイドラインの普及啓発、グリーン購入法による公共調達推進を契機とした需要喚起、脱炭素製品等の定義や表示の在り方の検討
全般に係るアクション	✓ KPI達成度に関するフォローアップ、国際動向の注視、各種取組に関する調査検討

※ 各施策については経済産業省、消費者庁等の関係省庁とも連携して実施する。

※ これらは現状、優先すべき事項について整理したものであり、この他にも効果的である取組についても順次整理・実施していく。

※ 本アクションプランは、フォローアップ結果等を通じて、適切なタイミングで見直ししていく。

※ 約8,000拠点に相当と推計  
 ※ 行政回収+店頭回収の約6万tは、約4万t:リユース、約2万t:リサイクルされるものと推計。

---

**(参考) 使用済衣類回収のシステム構築  
に関するモデル実証事業等**

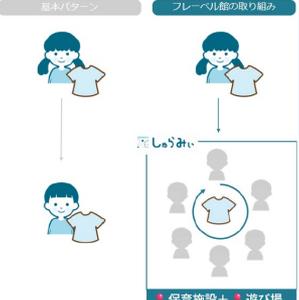
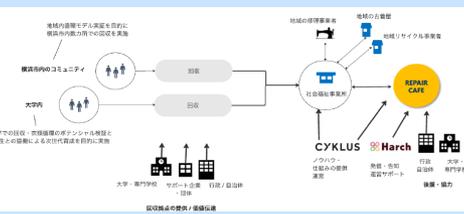
---

# 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

先導的な使用済衣類回収のシステムを構築しようとする地方公共団体、リユース関連事業者又は市民団体を支援することを目的とし、地域の実情に応じた創意工夫による再使用（リユース）等に関する取組を支援。令和7年度は7件の団体の取組を採択。

団体名	事業名	事業の概要	
<p>青山商事株式会社</p>	<p>サステナブルファッション・プラットフォーム「oHOHo（オホホ）CYCLE PROJECT」</p>	<p>業種の垣根を超えた連携団体により「サステナブルファッション・プラットフォーム」を設置し、大阪府全域約50拠点で衣類を回収し、故繊維事業者によって選別、リユース・リサイクルを実施する。 また、生活者へのアンケート等を通じた参加の動機づけの実証、繊維 to 繊維リサイクル等の新たな循環利用モデルの構築、運搬計画の最適化やCO<sub>2</sub>排出量の測定等の物流の実証を行う。</p>	 <p>プロジェクト概要図 (出所: oHOHo CYCLE PROJECT HP)</p>
<p>株式会社ビームス</p>	<p>循環型ファッションモデル実証事業</p>	<p>店頭に設置したECCOMMIT社の回収ボックス（31店舗）で、衣類・ファッション雑貨を回収し、ECCOMMIT社との協働により、再流通・リサイクルを行う（自社製品以外を含む）。 また、店舗スタッフやBEAMS CLUB会員を対象に、自社独自のオンライン再販プラットフォームを活用した買取サービス（回収は指定倉庫への発送）を開始し、自社ブランド製品の回収・再販モデルの検証を行う。買い取ったアイテムは、自社独自のオンライン再販プラットフォーム及びモデル店舗での販売を行う。</p>	 <p>(出所: 株式会社ビームス HP)</p>

# 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

団体名	事業名	事業の概要	
株式会社 BIOTECHWOR KS-H2	～EKOBE（エコーベ）CLOSET to FUTURE～ 循環ファッションモデル実証事業 —衣料資源から地域エネルギーへ—	<p>商業施設や学校、イベント等において、神戸弁で消費者自ら分別を促進するような回収ボックスを設置し、リユース（フリーマーケットや交換会等）、リサイクル（国内協力企業で繊維to繊維再生）、再エネルギー化（ガス化）を行う。</p> <p>また、IoT/AIにより回収量を自動集計し、CO<sub>2</sub>削減ダッシュボードを一般公開する。</p>	 <p>（出所：株式会社 BIOTECHWORKS-H2 HP）</p>
株式会社フ レーベル館	リユースの輪で子どもたちの遊びを応援！着替えレンタル『しゅらみい』の循環型事業	<p>保育施設や遊び場に回収ボックスを設置し、使用済子ども服の回収を行う。回収衣類は、クリーニングの上、子どもたちがのびのびと保育活動を楽しむための服として着替えレンタルサービス「しゅらみい」でリユースする。</p> <p>また、アンケート調査や行動観察を通じた着替えレンタルニーズの調査や、遊び場における使用済子ども服の最適な回収方法の検討を行う。</p>	 <p>プロジェクト概要図</p>
合同会社 CYKLUS（サイクルス）	衣類の回収・リペア・リユースによる地域内循環と日本版リペアカフェの実証事業	<p>連携大学および地域コミュニティにて衣類の回収を実施する。回収した衣類は、横浜市内の就業支援事業所にて仕分け・分別を行い、必要に応じてリペアやリメイクを施す。その後、連携大学や地域コミュニティで開催されるイベント内のリペアカフェ（地域密着型の修理イベント）にて、販売やワークショップを行う。</p> <p>また、連携事業者であるハーチ株式会社が運営するメディアを通じて情報発信を行う。</p>	 <p>プロジェクト概要図</p>

# 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

団体名	事業名	事業の概要
<p>特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21</p>	<p>子ども服リユース「おゆずりぐるり」～市民団体と行政の協働による使用済み子ども服の取組みの拡充と発展～</p>	<p>公共施設に設けた常設拠点やイベント等で子ども服を回収・配布する取組。今年度は参加者層の拡大を目的として、赤ちゃんイベントとの連携、小学校卒業後の家庭へのアプローチを実施。同時に昨年度試行実施した小学校での環境教育のPRを実施する。 また、昨年度の課題であった担い手の確保や取組のゴール設定、常設拠点の効率的な運営、資金の確保を目的とした新規事業にも取り組む。</p>
<p>認定特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会</p>	<p>環境と福祉の連携による、使用済衣類の循環を通じた「地集地活」事業</p>	<p>常設回収ボックスの設置（名古屋市内の施設10拠点）、イベント開催により使用済衣類を回収。①チャリティショップで販売（8店舗）、②名古屋市内生活困窮世帯への支援、③回収と合わせた無償提供（¥0マーケット）、④若手デザイナーとの連携アップサイクル素材利用、⑤古着屋への販売、⑥古紙問屋への販売、を通じてリユース・リサイクル実施。 名古屋市と連携、既存のリユース仕組みを活用し、環境と福祉の連携を推進する。</p>



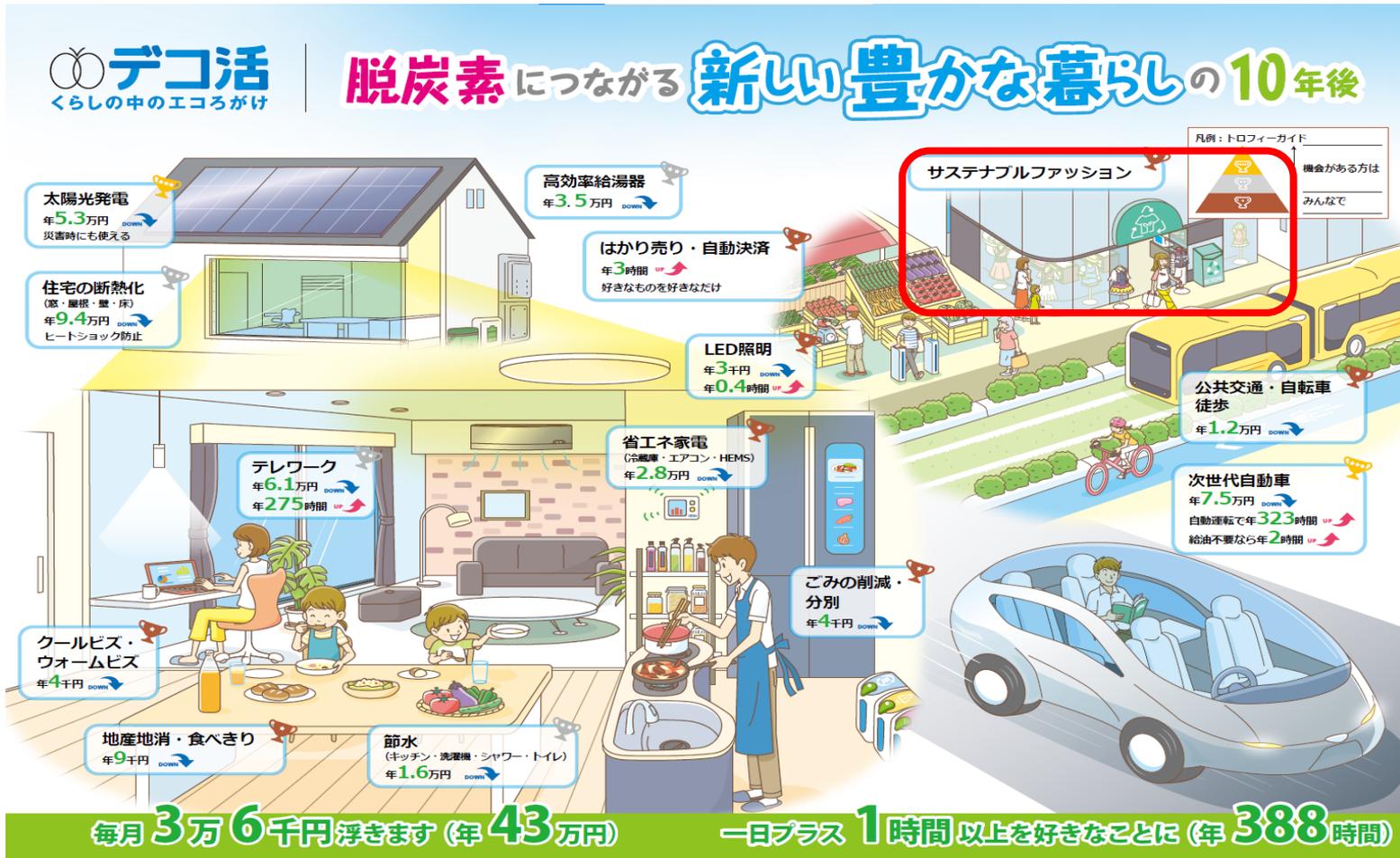
(出所：特定非営利活動法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21 HP)



(出所：認定特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会 HP)

# デコ活推進事業におけるサステナブルファッション

- 新しい豊かな暮らしを支える製品・サービスを効果的・効率的に社会へ実装するためのプロジェクトを行う事業者等に対して支援。
- 具体的には、消費者のボトルネックを構造的に解消する仕組み・仕掛け作りに対して最大1/3のソフト支援を行っている。



# デコ活推進事業 令和7年度衣分野採択例

企業名 (共同事業者含む)

代表事業者  
JR西日本SC開発(株)

代表事業者  
バリュエンスジャパン(株)

代表事業者  
(株)ECOMMIT

JR西日本SC開発株式会社

Valuence ConcePione  
Circular Design Company Design & Branding Agency

ECOMMIT

Konel

ZEROC エリアゲアフライヤー  
ENDLINE.

衣料品廃棄の削減に向けて、使用者である国民の不要になった服の行き先として、「捨てる」以外の選択肢を提供し、自らの価値観にあった手段の選択を促し、**能動的に行動変容を起こす**プロジェクト。  
服の行き先(=サービス)を提供する複数の企業と協業し、オフラインとオンラインの両軸から多くの国民へ衣料品の廃棄以外の選択肢を提供する取り組み。

スポーツを通じて、**本来の役目を終えた商材をアップサイクルし、国民や生活者の行動変容を促す**プロジェクト。  
全国25競技・180以上のチーム・団体が使用するアイテムの製造元と連携し、短期間しか使用されない装飾品やユニフォームなどを回収し、元の素材やデザインの特徴を活かしながら、付加価値の高い唯一無二のモノづくりを目指すとともに、プロスポーツ団体の地域コミュニティや押し活の要素を最大限に活かし、**人々の生活や日常の中にサステナブルファッションを溶け込ませる**取り組み。

日本最大のサステナメディア「サストモ」(LY)と資源循環インフラ「PASSTO」(ECOMMIT)を掛け合わせることで、**企業の資源循環の取組みと生活者を繋ぎ、循環型社会の推進に向けてインパクトのある循環を実現する**プロジェクト。  
不要になったモノを身近で手軽に手放せるPASSTOの仕組みに加え、**生活者がより気軽に・楽しく・お得に資源循環に参加することが出来るLINEアプリを展開**することで、**人々の輪を広げ、意識・行動変容を促す**ことで、サーキュラーエコノミーの仕組み造りを目指す。

事業概要 (予定)

---

# サステナブルファッションに係る 環境研究総合推進費

---

# 推進費①

## 繊維廃棄物のガス化リサイクルと水素利用を核とした地域循環シナリオの構築

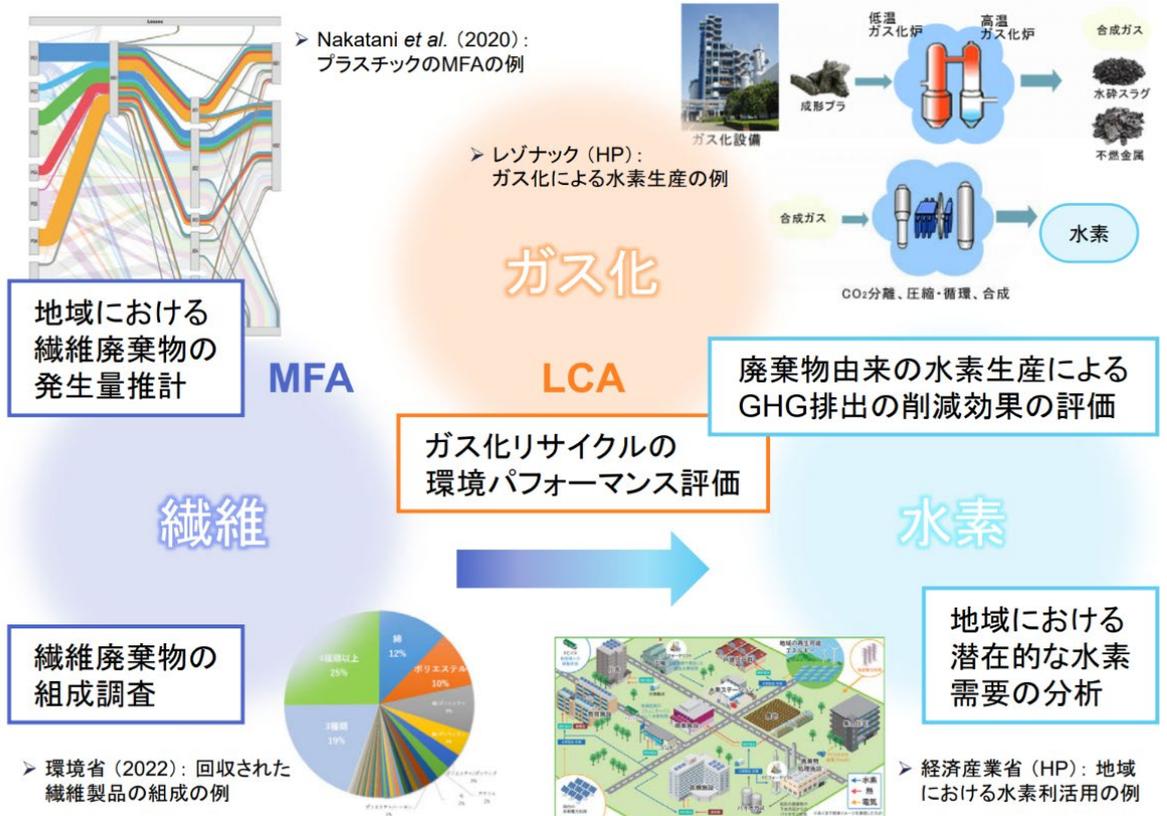
- 研究期間 2024 年度（令和 6 年度）～ 2026 年度（令和 8 年度）
- 研究代表者 所属： 東京大学
- 研究代表者 氏名： 中谷 隼
- サブテーマ： ①地域における繊維廃棄物の発生量の分析およびガス化リサイクルの環境パフォーマンス評価  
②地域における水素の潜在的需要量の分析および廃棄物由来の水素の環境パフォーマンス評価

### 研究目標

・当該地域における繊維廃棄物のガス化リサイクルの最適導入量を導出し、それによる廃棄物由来のGHG排出の削減可能量を評価する。

・繊維廃棄物のガス化リサイクルおよび水素利用を核とした地域循環シナリオのモデルケースを構築する。

**リサイクル困難な混紡衣料の有効利用の可能性を探る**



# 推進費② 混紡繊維の分別・リサイクル技術の開発

- 研究期間 2025 年度（令和 7 年度）～ 2027 年度（令和 9 年度）
- 研究代表者 所属： 大阪大学
- 研究代表者 氏名： 宇山 浩
- サブテーマ： ①綿/ポリエステル混紡繊維の分別・リサイクルのプロセス開発  
②ウール/ポリエステル混紡繊維の分別・リサイクル技術の開発  
③ポリウレタン（PU）含有混紡繊維の分別・リサイクル技術の開発

## 研究目標

・様々な混紡繊維をターゲットとする  
分別・リサイクル技術の開発

・マイクロ波を利用した混紡繊維の分別・リサイクル技術を幅広い繊維に適用

・様々な混紡繊維について、企業との協力体制の構築・プロセス開発  
⇒ 技術実証 ⇒ 実用化

高効率（短時間処理）かつ簡便な  
繊維 to 繊維リサイクル

## 綿/ポリエステル混紡繊維の分別・リサイクル技術



---

## その他参考資料

---

# (参考) 使用済み製品等のリユース及びサステナブル・ファッション促進事業 (R7年度補正予算資料)

## 使用済み製品等のリユース、サステナブルファッション、食品ロス削減、プラスチックリサイクルの推進による循環型社会実現支援事業



【令和7年度補正予算 526百万円】

リユース、サステナブルファッション、食品ロス削減、プラスチックリサイクルの推進等による循環型社会の実現に向けた支援により、地域資源を活用し、全国の地域に強い経済と豊かな生活環境を創出します。

- ### 1. 事業目的
- (1) 物価高騰対策にも資する資源循環促進事業への支援を行う。
  - (2) 使用済み製品等のリユース及びサステナブルファッションの推進に向けた支援を行う。
  - (3) 食品廃棄物等の発生抑制と食品循環資源の再生利用等の地域実装を支援する。
  - (4) 動脈産業と静脈産業の連携を推進し、プラスチック再生材を使用したプラスチック製品の製造を拡大する。

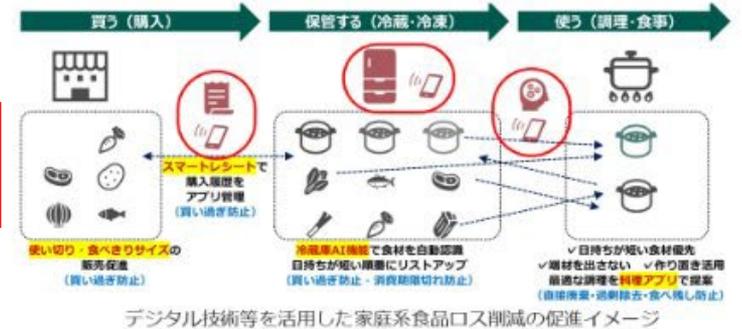
### 2. 事業内容

- (1) 物価高騰対策にも資する資源循環促進事業
  - ・自治体が行うリユース等の促進に関する取組について支援を行う。
  - ・リユースが進みにくいEVバッテリーに関するリユース促進の支援を行う。
- (2) 使用済み製品等のリユース及びサステナブルファッションの推進
  - ・消費者が利用しやすいリユースの新たなビジネスモデルや、回収後の資源活用まで見据えたシステム構築に取り組む自治体等を対象にモデル事業の実施支援等を行う。
- (3) 食品ロス削減対策及び食品リサイクルシステムの地域実装の支援
  - ・食品ロス削減に向けた課題を明確にするため、自治体の家庭系食品廃棄物・食品ロス排出状況の把握に向けた発生量調査・組成調査等を支援する。
  - ・デジタル技術等を活用した家庭系食品ロス削減対策及び食品リサイクル事業者等の関係者間連携による食品リサイクルシステムの地域実装支援を図る。
- (4) プラスチック再生材利用拡大に向けた動静脈連携事業の推進
  - ・プラスチック再生材利用拡大に向けた施策を推進するため、調査分析および専門家の参加する検討会を実施する。

### 3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業
- 請負先 民間事業者・団体等
- 実施期間 令和7年度

### 4. 事業イメージ



まだ使えるモノはリユースしましょう  
八王子市のリユースネット実装中

- いろいろ 家と家でリユース可能
- 簡単予約 予約して送すだけ
- 無料引取 商品でもOK

家電・スポーツ用品・子ども用品・家具など



東京都八王子市による地域のデジタルプラットフォームを活用した不要品のリユース実証事業

動静脈連携によるプラスチック再生材の使用の推進

お問合せ先:

環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 電話: 03-6205-4947 同課 資源循環制度推進室 電話: 03-6205-4946  
同課 容器包装・プラスチック資源循環室 電話: 03-5501-3153